

教育DXを推進する鍵は、組織的な取組にあり！

皆さんの学校では、教育DXをどのように進めていらっしゃいますか？「何から手をつければいいのか分からない」と、教育DXの推進に二の足を踏んでいる先生方も多いのではないのでしょうか。

今回は、栗原市立高清水小学校の取組から、教育DXを推進する鍵を探ります。

栗原市立高清水小学校のDXに向けた取組

取組① 教育DX推進戦略の目指す姿(ビジョン)とロードマップを作成(別紙1)

3年後の目指す姿(ビジョン)を明確にし、そこへ向かうため、1年目は、「会議資料の完全ペーパーレス」や「校内ポータルサイト運用」、「打合せのオンライン化」など校務における具体的な取組を示し、2年目は、授業での活用に広げ、3年目は、教育DXが日常化した学校としたロードマップを作成しています。これにより、教職員全員が目標を共有し、協力して教育DXを推進できる体制を築いています。

取組② 取組の効果検証を行い、教職員にフィードバック

教育DXの取組について、アンケートで効果検証を行い、その結果を教職員にフィードバックしています。これにより、教育DXの効果に対する職員の理解と関心を高めています。

この2つの取組は、教育DXを「一部の担当者」だけが進めるものではなく、「学校全体」の文化として根付かせ、組織全体で教育DXを推進するという、教育DXを推進する上で重要なポイントを示唆しています。栗原市立高清水小学校の事例を参考にしながら、子どもたちの成長につながる学校づくりに向けて、一歩ずつ教育DXを推進していきましょう。

チャットで変わる！ 連絡事項の伝達、情報共有の効率化！！

校内での連絡事項の伝達、情報共有はとても重要なものです。打合せ等での口頭伝達だけでは、重要な情報を聞き逃してしまったり、その場にはいない教職員に伝えられなかったり、業務を行う上で困った経験をしたことがあるのではないのでしょうか。でも、心配はいりません。その課題は、チャットの導入で大きく改善できます。

文部科学省(全国の学校における働き方改革事例集)が推奨するチャットの活用で、日々の連絡事項の伝達、情報共有を効率的に行うことができます。ぜひ、チャットでの連絡事項伝達、情報共有の方法を取り入れてみませんか？

チャットによる改善事例

これまでの連絡・共有の課題

- 紙、メール、付箋メモなど、連絡事項を記録したものが散らばる。
- 必要な連絡事項を見つけるのに、時間がかかる。
- 連絡事項が記載されたものを紛失してしまう。

チャットを用いた改善例

- ☆ 校務分掌や学年ごとの連絡用チャットスペースを作成し、一元管理することで、情報の散らばりを改善できる。
- ☆ チャットの検索機能を使うことで、業務を行うために必要な連絡事項がすぐに見つかり、無駄な時間を大きく削減できる。
- ☆ チャットでやりとりしたデータは、クラウドに保存されるため、紛失の心配もなくなった。



「全国の学校における働き方改革事例集」は、こちらの二次元コードからご覧ください

ここで紹介しているチャットは、Google チャットを想定しています。県域アカウント(gs.myswan.ed.jp)の教職員が Google チャットを利用する場合は、所属単位での利用申請が必要です。利用申請については、所属の担当者にお問い合わせください。

宮城県総合教育センターの令和6年度専門研究の教育の情報化研究グループは、遠隔授業推進パッケージ「えんかくいろは」を開発しました。遠隔授業は、教育機会の確保や質の高い教育の実現という2つの側面から必要性が求められています。「えんかくいろは」は、その遠隔授業の推進を支援する目的で開発されました。今年度は、学校の要請に応じて、「えんかくいろは」を用いた教員研修会を展開しています。

今回は、蔵王町立遠刈田小学校での研修会の様子を報告していただきます。

研修会実施校	蔵王町立遠刈田小学校	実践の対象	教員
<p>研修会概要</p>	<p>○研修会の様子</p> <p>今回の研修会は、「万が一に備え、児童の学びの機会を保障できる学校体制を整えておきたい」「遠隔授業に必要な知識や技術を身に付けたい」という蔵王町立遠刈田小学校の先生方の思いを受けて、実施しました。「えんかくいろは」は、まさにそのような思いを持つ学校や先生方をサポートするために開発したコンテンツです。</p> <p>研修会は、8名の先生に参加していただきました。1グループ4名に分かれて実施し、各グループで「ミッション」に取り組みました。ミッションは、全部で12種類あり、「えんかくじ(図1)」というくじ形式で提示され、突然、遠隔授業が必要になった時の困り感を体感することができます。</p> <p>各グループは2つのミッションに取り組みました。研修会の後半には、ミッションを通して学んだことや感じたことを発表・共有し、教員間の共通理解を図りました(図2)。</p> <div data-bbox="395 947 871 1216" data-label="Image"> </div> <p>図1「ミッション」などが書かれた「えんかくじ」</p> <div data-bbox="892 947 1390 1216" data-label="Image"> </div> <p>図2 研修会の様子</p> <p>○研修会後のアンケート結果 ※事後アンケートの結果より一部抜粋(アンケート回答者:8名)</p> <p>① 研修会を通じて、遠隔授業の必要性を理解することができましたか。</p> <p>【できた5名、どちらかといえばできた3名、どちらかといえばできなかった0名、できなかった0名】</p> <p>② 今後、あなたが遠隔授業を実施する上で、必要なことや足りないことなどを考えることができましたか。</p> <p>【できた5名、どちらかといえばできた3名、どちらかといえばできなかった0名、できなかった0名】</p> <p>自由記述欄には、「ICT 活用が苦手な私にとって、とても有効な研修だった。まずは『えんかくいろは』をもう一度視聴し、活用したい」「万が一を想定して、しっかりと準備をすることが大切だと感じた」などの記述がありました。</p>		
<p>読者へのメッセージ</p>	<p>「えんかくいろは」の中には、短時間で同時双方向型遠隔授業に必要な知識や技術を知ることができる動画集「えんかく辞典」があり、知りたい内容が、すっきりと分かりやすく、レベル別に整理されています。</p> <p>教員だけではなく、児童生徒、保護者も視聴することができるので、遠隔授業を始める前や、遠隔授業で困ったときなどに役立つことができます。</p> <p>図3は、接続テストに備えるために、「えんかく辞典(動画タイトル「接続テストをしたい」)」を学級で視聴している様子です。</p> <p>(令和7年4月に石巻市立河南東中学校で実施)</p> <div data-bbox="963 1704 1401 1951" data-label="Image"> </div> <p>図3「えんかく辞典」を視聴する学級の様子</p>		

(編集後記) 今号は、教育DXについて取り上げました。教育DXは「教員と児童生徒がより向き合う時間を作る」ための一助となるのではないのでしょうか。小さな実践を積み重ね、学校全体が変わる大きな一歩を踏み出すことができるよう願っております。

計画年度：令和6～8年度（3年計画）

本校における教育DX推進戦略

[教育DX] 学校が、デジタル技術を活用してカリキュラムや学習のあり方を革新するとともに、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立する。単にアナログなものをデジタルに置き換えるという「デジタル化」ではなく、**教育や学校に変容、変革を起こす**ことをねらう。



令和8年度

3年後に目指す姿

教育DXが日常化した学校

- 端末をフル活用し、生き生きと授業を楽しむ教職員
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

<3年目の取組の方向性>

- ✓ 校務DXの更なる推進
- ✓ 児童の学びを支援するアプリ（デジタル教科書、クラウド系、Aドリルなど）をフル活用した学びの充実
- ✓ チャットツールを活用した教職員への授業支援（学校内外）
- ✓ クラウドツールを活用した校内研修の改善と充実 など

2年後の姿

業務の一層の効率化と
学びのDXの推進

<2年目の取組の方向性>

「授業と校務は相似形」

校務DXでクラウド活用のメリットを体感した教職員は、そのスキルやアイデアを授業にも生かし、**いずれ子供たちの学びにプラスの作用をもたらす。**

児童の情報活用能力の育成

令和7年度

1年後の姿

校務DXによる
長時間労働の改善
クラウド活用の
日常化

<1年目の取組>

- ・ 教職員専用サイトの運用開始
- ・ 会議資料のペーパーレス化
- ・ オンラインでのタスク管理
- ・ 打合せのオンライン化
- ・ 行事予定黒板（職員室）の廃止
- ・ 勤怠管理アプリの導入 など

令和6年度



現状と課題

- ▲ 校務DX
- ▲ 長時間労働
- ▲ 端末の利活用
- ▲ アナログ文化…

栗原市立高清水小学校

<https://sites.google.com/gs.myswan.ed.jp/takashimizu-e/>